

班通信

No. 5



ツワブキ

令和4年12月8日

さいたま市
岩槻班退職校長会
事務局:090-5826-3329(岡野)

日帰り研修旅行(足利市内)を実施

10月21日、抜けるような秋晴れの中、足利市へ向かいました。当日は16名が参加、バス内では和やかに旧交を温め、見学地では新たな発見もあり、とても有意義な一日になりました。

見学地で心に残ったいくつかをご紹介します。

○足利学校 シンボル「学校門」続く「杏壇門」をくぐると、孔子座像が祀られた「孔子廟」が、隣には復元した茅葺の「方丈」が建っています。中では小学生達が正座して論語を学んでいました。



史跡が市民の精神的な支柱として地域全体に愛され大切に守られていると感じました。

○鑊阿寺 土塁と塀に囲まれた足利氏の館跡に足を踏み入ると、鎌倉時代の武家屋敷の面影が伝わってきます。



寺院は1196年創建で国宝の本堂の大屋根の棟の熨斗瓦には3つの家紋(足利氏の家紋、天皇家から賜った菊と桐をあしらった皇室の家紋2つ)が輝き、見るからに歴史を感じる寺院でした。

○ココ・ファーム・ワイナリー 坂道を上ると、1958年一介の特学の担任川田昇氏が生徒の将来のためと、38度の急斜面の杉林を生徒達と開墾して整備した葡萄畑が現れました。係から開設時の様子、現在は障害者支援施設とワイナリーを併設し、150名の園生が栽培から醸造まで行っているなどの説明を聞き、改めて壮大な事業であることが分かりました。葡萄畑を見上げて飲むワインは、川田氏の熱意や不屈の精神、子弟の絆や園生の頑張り、支援をする人々の温もりが偲ばれ、味わい深く感じました。



かわいい「うさぎ」がたくさん生まれます

第2回企画研修会を開催

干支を木目込み人形で制作する研修会を、12月4日(日)市民会館いわつきで開催しました。本会会員16名と他班会員等7名の計23名が参加しました。当日は森田由美子様を講師に迎え、和気あいあいながら、皆が真剣に夢中になって取り組みました。研修会は11日に続きを行い、完成した兎を自宅に飾り、新年を迎えたいと思います。



県教委情報

職員の定年引上げを実施(令和5年度から)

- 職員の定年が60歳から65歳まで、2年に1歳ずつ段階的に引き上げられる
- 対象は令和4年度末年齢が59歳の教職員
- 給料の月額額は60歳前の7割水準
- 60歳に達した管理職は、次の4月1日以降管理職以外の職に降任等させる(役職定年制)
- *退職校長会にとっては、令和6年度当初から令和14年度当初まで、隔年で定年退職による新会員がいないことになる

班会員の快挙相次ぐ!!

本会会員の快挙が続いています。誠におめでとうございます。今後の更なるご活躍を期待します。



○県退職校長会囲碁大会

Bクラス 準優勝 中山時次会員 Cクラス 優勝 田中秀信会員 第3位 井上修一会員

○県退職校長会ゴルフ大会

準優勝 秋元千代子会員

季節だより



マンリョウ

『千両(センリョウ) 万両(マンリョウ) 有り通し(アリドウシ)』冬に赤い実をつけるこの3種は、正月の「縁起植物」としてかつては商家の庭に植えられました。万両・千両、加えて百両(カラタチバナ)・十両(ヤブコウジ)・一両(アリドウシ)もあり、先人の洒落た命名に感服です。

ところで自ら移動できない植物は、最終目的である種子を広い範囲に蒔くために多様な戦略を獲得しています。マンリョウは色を識別する鳥類に実を食べさせ、中の種子を運ばせる戦略です。そのため実をよく目立つ鮮やかな赤色、鳥の口に合う大きさ、丸く滑らかで飲み込みやすくなっています。しかし熟したマンリョウの実には春以降も木に残っています。どうも鳥には「まずい」味で不人気なのです。じつはこれも戦略で、鳥は冬の食糧難のさ中、赤の魅力に惑わされ、まずい実を少し食べてはすぐ立ち去り、そこで糞とともに種子を落とします。この繰り返しで広範囲に蒔くことができます。鳥類は食事後短時間で排出するので、植物にとっては食事後すぐ遠くへ移動することが重要なのです。逆に「うまい」実は、鳥が一度に大量に食べるので時間がかかり、近くに大量の種子を蒔いてしまいます。そこでこうした植物は、実の熟す時期をずらし、少しずつ長期間食べさせ、広く遠くへ運ばせています。